要約（邦訳）

Development of a scale on beliefs about negative emotions for Japanese young adolescents

中学生を対象とした感情に関する信念尺度の開発

樫村正美　常磐大学
石津憲一郎　富山大学
下田芳幸　佐賀大学

感情に関する信念には感情に対する善悪の判断，そして感情に対する対処可能性の認識という 2 つの基本的な要素がある。これらは感情のマネジメントに重要な役割を果たすが，中学生を対象とした感情に関する信念を測定する尺度は開発されていない。本研究は，中学生の怒り，悲しみ，不安といったネガティブ感情に関する信念を測定する尺度を開発し，その尺度特性を評価することを目的とした。1,352 名の中学生を対象に 2 つの調査（尺度の記述統計や構造的妥当性，内的整合性，再検査信頼性，そして構成概念妥当性の検討）が実施された。確証的因子分析の結果，怒り，悲しみ，不安の 3 つの下位因子とネガティブ感情全般の高次因子という構造が確認され，十分な内的整合性が示された。また，本尺度得点は仮説通り，抑うつ気分や体験の回避と中程度の正の相関が示され，活動性や楽しみの減退や身体愁訴とは弱い正の相関が示されたことから，構成概念妥当性の一部が支持された。以上の結果から，本尺度は中学生のネガティブ感情に関する信念を評価する上で有用なものであることが示唆された。

キーワード：感情信念，感情に関する信念，中学生，信頼性，妥当性